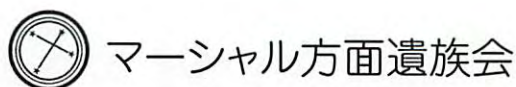


# 本部だより



## ●第14号

●環礁・本部だより第14号 ●発行日：平成18年8月1日 ●発行人：黒川誠  
●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚3-4-17  
●電話 03-3783-8382 ●FAX03-3783-8384 ●振替番号 00100-0-93487



第44回マーシャル方面遺族会慰霊祭（平成18年4月1日・於靖国神社）

## 平成18年度 慰霊祭 総会 直会

### 御霊やすかれ

安威和子（神奈川県）

平成十八年四月一日（土）、春のやさしい日差しのもと、慰霊祭が行われました。この日はとても暖かな絶好のお花見日和。桜の花も見頃とあって靖国神社の境内は大勢の方たちで賑わっております。集う皆様方のお顔も明るく幸せに輝いてみえました。

午前九時より受付が開始され、ピンクの可愛いリボン型のワッペンを胸に貼って参集殿内へ。再会を喜び手を取り合う方たちの姿にこちらも思わず笑顔になりました。

昇殿への参拝時間が大勢の人たちで大幅に遅れてしまいましたが、このお陰で私はお隣の席の初めてお顔を合わせた方とゆつくりとお話しさせて頂くことが出来、お互いに亡父の思い出にしばし浸ることが出来ました。

現地慰霊巡拝のお話も聞くことが出来、どんな国、どんな場所だと改めて父に対する思いが募り、時間のたつのも忘



靖国会館での定期総会風景

れる程でした。日頃あわただしく過ごしている私にとつてとても貴重な時間となりました。これも御霊の贈り物かと感謝致しました。参集殿で参拝時の説明を受け、昇殿参拝へと向かいました。

当会の皆さん揃って御手洗所を経て、荘厳なる大杜のたたずまいの中、今年も参拝させて頂けることの幸せを感じながら本殿へと進みました。拝殿、本殿共に暖房が施され、椅子も十分に用意されて

おりました。

宮司様の祝辞奏上、黒川会長の祭文奏上の後、代表者（会長、植田敏裕、グレッグ・ドボルザーク、伊藤政一、毛塚通弘、西森サツキ、中山美子の各氏）によつて玉串奉奠が行われ、黙祷、しばし共に在りし日のことなど思い浮かべ、来年も、そしてまだ果たせない現地への慰霊を託びつつ、「絶対に行きます」と心に誓いながら昇殿参拝を終えました。

## 定期総会

慰霊祭の後、会場である靖国会館の前庭で記念撮影（表紙写真）をしました。定期総会は、同会館の二階（田安・玉垣の間）において定時より行われました。

### 式の進行

- 一、 開会の辞 草場寛
- 二、 会長挨拶 黒川誠会長
- 三、 会計報告 晝間志津子
- 四、 国内慰霊祭行事発表

### ◆荒木常子

- ① 千鳥ヶ淵戦没者拝礼式（厚生労働省

主催）

五月二十九日

- ② 本会永代神楽祭（靖国神社）

七月十五日（日）午後二時

- 宿泊は「九段会館」に直接お申し込み下さい。

- ③ 全国戦没者追悼式（日本武道館）

八月十五日（日）。

- ④ 東京都戦没者追悼式（文京ホール）

八月十五日（日）。

- ⑤ 沖縄戦没者追悼式（都遺族連合会主催）

十月下旬。

- 五、 現地慰霊巡拝発表

### ◆高林芳夫

- ① マーシャル方面遺族会主催の現地慰霊巡拝

### 《期日》

- 十一月四日東京集合、十一月十日成田解散の七日間。

クエゼリン島、ルオット島の慰霊巡拝

《費用》二十六万円。

問い合わせは本部（03・3783・8

382）または高林芳夫（090・33

37・4531）まで。

## 平成17年度 会計報告書

マーシャル方面遺族会 自:平成17年1月1日  
至:平成17年12月31日

## 1) 一般会計収支計算

## 収入の部

科目	金額
前期繰越	876.869
賛助金	1.239.060
受取利息	365.702
雑収入	500
小計	1.605.262
合計	2.482.131

## 支出の部

科目	金額
慰霊費	279.318
広報費	397.324
会議費	124.684
振替手数料	19.000
公租公課	73.140
雑費	245.929
小計	1.139.395
次期繰越	1.342.736
合計	2.482.131

## 2) 一般会計財産目録


平成17年12月31日現在


資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	96.520		
普通預金	1.198.155		
郵便振替	48.061		
		次期繰越	1.342.736
合計	1.342.736	合計	1.342.736

## 3) 特別会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期より繰越	9.000.000		
		次期繰越	9.000.000
合計	9.000.000	合計	9.000.000

※定期預金および定額貯金として保管

会長 黒川 誠 

会計 高橋 鎮夫 

- ② 厚生労働省主催の現地慰霊巡拝  
《期日》  
●十二月六日～十二月十三日までの八日間。  
《慰霊巡拝する島》  
一班＝マジユロ・クエゼリン・ルオット。  
二班＝マジユロ・ミレ・ウオッセ。  
《費用》  
一班＝三十三万七千円  
二班＝二十九万八千円  
(ただし国より3分の1の補助金が交付されます)。  
●申し込み締切日は、九月八日。  
●申し込みは、各都道府県の福祉保険局生活福祉部計画課援護係まで。  
●派遣予定人員は、三十名(申込はお早めに)。  
③ 日本遺族会による遺児の慰霊巡拝  
《期日》  
●十九年一月二十日～一月二十八日までの九日間。  
《慰霊巡拝する島》  
A班＝マジユロ・クエゼリン・ルオット・マロエラップ・ウオッセ。

B班Ⅱマジユロ・タラワ・マキン。

《費用》十万円。

●申し込みは、各都道府県の日本遺族会へ。

●締め切りは、実施日の四カ月前までです。ご注意ください。

## 直会（なおらい）

定期総会終了後、同室に配膳して直会に移りました。参加者六十三名は、植田さんによる乾杯のご発声で和やかに会食、懇談となりました。

午後三時、全予定を終了し、散会となりました。

## 慰霊祭に出席して

岡野智津子（神奈川県）

相変わりませず、にこやかに私たち遺族をお迎え下さいまして誠に有り難うございました。

お陰様で心待ちに致しておりました年に一度の靖国神社での再会をお互い喜び合い、それぞれの思いを込めて無事昇殿

参拝もさせて頂きました。

遺族会の皆様方も満開の桜を背に満足

いっぱい帰途に着かれたことでしょう。私も又来年を約束して参拝して参りました。役員の皆様方には当日までの準備万端は言うに及ばず、遺族会の維持運営にはご苦勞戴いて有り難うございます。

只今では遺族会会費も一切お取りにならず、私達も又それに甘んじてお縋り致しておりますが、嘸気苦勞の多いこととお察し致します。

今では親兄妹も年老いて何時のまにか時代は孫、子の代へと移り変わり、戦争を知らない人達の時代となりつつあります。遺族会発足当初の頃を辿りながらお話を出来る方々も少なくなり、総会の席で交わされる諸々の事柄や質問に、会の立ち上がりから奉仕の信念で今日あることをご存じない方もおいでのようで残念です。

遠い昔を顧みて、今更ながら時の移り変わりを切実に痛感致しております。心からご苦勞様とお禮を申し上げます。平成十八年参拝を終えて感じたままに記します。

## 慰霊祭出席者一覽

■百十三名 敬称略・順不同

青森県 須藤明子（塚原ハナ代理） 宮城県 佐藤勉 福島県 富田ミツ 富田キミ 鈴木ヨシエ 根本さとみ 鶴沼久義 茨城県 遠藤安男 神永栄子 鈴木やよい 大部美智子 北條晃 栃木県 猪瀬康夫 菊池彦亘 埼玉県 天野好子 井沢なを 井沢邦夫 小野博孝 小野トキ子 西勝章夫 橋本強 高林芳夫 グレック・ドボルザーク 近藤マスエ 小室貞男 小室洋子 鈴木裕子 藤田羊一 佐藤知子 大井和子・小松順子（高橋とし子代理） 千葉県 石井健三 菅沼昇 泉水堯恵 岩佐とみ 腰川妙子 芳賀タツエ 芳賀淳子 川端英夫 川端時江 谷澤英子 谷澤重成 東京都 會田くに 荒木常子 内海静枝 黒川誠 黒川直吉 齊藤美美 佐竹エス 間々田征史 間々田邦子 田島照男 田島智恵子 坂本美枝子 石塚文子 石谷典夫 田中猛 西田常子 谷梯初江 大竹キヨ子 中村順子 中村秀夫 長谷川智子 番場信子 書間志津子 山口裕子 山口良二 山田

- 二美 伊藤政一 山森久江 毛塚通弘
- 星野綾子 草場寛 水野薫 神奈川県
- 岡野智津子 糀谷友孝 鈴木友季子 鈴
- 木進 西森サツキ 服部純昌 服部政久
- 服部健太 佐藤清八 佐藤房子 平井貢
- 安威和子 柳沢弘子 新潟県 山田昭雄
- 富山県 廣上敏夫 上田一夫 広島富子
- 岐阜県 堀尾洋平 堀尾英夫 愛知県
- 鈴木由里 浜田芳枝 鈴木りよ 京都府
- 東地井義訓 奈良県 奥田義寛 山中美
- 子 栗山美子 広島県 佐々木千鶴子
- 上田敏裕 山口県 榑崎馨 香川県 石
- 川正興 石川好子 金森越哉 金森佳子
- 松原勇爾 松原敦子 松原愛紘 真鍋信
- 一 真鍋正美 真鍋公代(石田藤美代理)
- 高知県 原一政 熊本県 土田利子 会
- 友 兵藤義彦

平成十九年度  
総会・直会の会場変更について

平成十九年度の本会慰霊祭は四月七日(土)に決定しておりますが、当日は靖国神社恒例の奉納相撲が行われ、靖国会館が相撲の控え室として使用されるた

め、止むを得ず会場を「九段会館」に変更致します。

従って昇殿参拝の後、皆様には徒歩にて九段会館(ありあけの間・あかつきの間)に移動して戴きます。

◇総会(ありあけの間) 〓 十二時三十分 〓 十三時予定。

◇直会(あかつきの間) 〓 十三時二十分 〓 十五時予定。

九段会館に宿泊希望の方は、予約はしてありますが、三月二十日までに直接お申し込み戴きます。

なお宿泊費は、八千百九十円(一泊朝食のみ)となります。

◇九段会館電話 03・3261・55  
21(宿泊担当・村上克己支配人)

特別弔慰金の件

終戦六十周年の機会をとらえ、戦没者等の遺族に対して国として改めて弔慰の意を表すため、戦没者等の遺族に対する特別弔慰金(第八回特別弔慰金)が支給されることになりました。

◇支給内容

額面四十万円、十年召償還の記名国債。

◇請求期間

平成十七年四月一日から平成二十年三月一日まで。

◇支給の対象者

平成十七年四月一日(基準日)において、戦没者(昭和六年九月十八日以後の公務又は勤務関連傷病により死亡した軍人、軍属、準軍属)にかかる公務扶助料、遺族年金などの年金を受けるご遺族がいない場合に、戦没者の死亡当時のご遺族で、最も先順位のご遺族一人に請求していただけます。なお、日本国籍喪失、戦没者との親族関係が終了(離縁)している人は支給対象になりません。

◇請求手続きの窓口

請求者が住まう市区役所、町村役場が請求窓口になります。

賛助金芳名

平成十八年一月十二日から六月一日までの間、次の会員・会友の皆様から慰霊奉賛のための浄財を頂戴致しました。金額の合計は二百五十名・百八十八万一千円でした。ここに厚く御礼申し上げます。

今後共本会の存続のために何分よろしくご協賛下さいますよう、お願い申し上げます。

■敬称略・順不同

北海道 伊勢吉男 伊藤フジ 岩川あい  
青森県 松橋ミツエ 塚原ハナ 下川與三郎 田中正治 岩手県 小杉サヨ 佐藤享三 宮城県 新田富美子 佐藤勉 松木孝子 相馬ツキ 佐々木賢三 秋田県 近藤キクエ 打矢和子 大宮ツタ 山形県 大場広弥 秋保十郎 福島県 古市光男 根本さとみ 富田ミツ 鈴木ヨシエ 三浦一郎 大野博 小野敏子 坂本キヨ子 楠宗親 茨城県 神永栄子 鈴木やよひ 遠藤安男 大部美智子 北條晃 栃木県 菊池彦亘 猪瀬康夫 高橋克磨 吉川芳蔵 群馬県 森清美 清水宏一 埼玉県 片桐覚治 山形雅俊 小野博孝 **橋本強** 西勝章夫 北原ひで子 宇田川ひさ 天野好子 井澤なを 千田恒子 富川艶子 高林芳夫 近藤マスエ 小田原利子 鈴木裕子 佐藤知子 大井和子 山下みつ 松本キヨ子 服部陽一 **橋本強** 千葉県 廣原實 宮本博 芳賀タツエ 津久井艶子 腰川妙子 泉

水堯恵 高山満喜男 豊谷美恵子 菅沼昇 谷澤英子 川端英夫 石川きみ 相川孝夫 宮崎實 川名博夫 東京都 荒木常子 黒川誠 蓮沼常子 晝間志津子 毛塚道弘 斉藤美美 番場信子 森田讓二 田中猛 會田くに 草場寛 加藤照 井上賀雄 佐竹エス 関谷シモ 佃喜美 山田二美 大野清子 高坂和靖 中村順子 高橋鎮夫 星野綾子 山森久江 長谷川智子 谷梯初江 山口良二 山口裕子 内海静枝 岩浪邦江 石谷典夫 小島八重子 水野貞二 間々田征史 小林法子 大高吉郎 西田恒子 浜田つき子 六軒つる子 島崎正猪 木下満子 青木利一 坂本美枝子 石川勲 鈴木晴雄 神奈川県 清水春江 長塚隆夫 川名茂子 金子武晴 山村一郎 佐藤登志 土田文字 服部純昌 石澤洋子 渋谷良雄 森井静子 岩田とし子 岡野智津子 大石純一 岩瀬三樹三郎 西森サツキ 糀谷友孝 平井加代子 平井貢 石渡綾子 柳沢弘子 鈴木友希子 熊沢静子 新潟県 山田キヨエ 近藤茂 高橋梅子 渋谷セキノ 石丸進 本保美恵子 藤田正勝 富山県 廣上敏夫 広島富子 池田

淑子 村梶光栄 棚橋昭二 藤木義房 小林照子 金山深雪 広上敏夫 石川県 森芳子 村上一雄 高島芙蓉 木村久子 吉光澄子 山梨県 黒川正文 長野県 綾部はつゑ 宮下勤子 中村純久 油井芳枝 牧内長逸 末松乙夫 岐阜県 堀尾洋平 鳥木和子 吉田正明 静岡県 後藤行雄 大畑幸夫 服部くにゑ 野崎昭二 三浦久夫 木野政雄 愛知県 安藤昌子 岡島みね子 浜田芳枝 大見シノブ 川越コウ 京都府 川本彦次 東地井義訓 大阪府 大串静代 馬場富子 枝光剛郎 山形雅俊 奈良県 山中美子 奥田義寛 和歌山県 福井栄子 鳥取県 井上照美 島根県 伊瀬忠夫 広島県 藤本正 奥井禮子 佐々木千鶴子 瀬戸隆子 浦手ハル 植田敏裕 山口県 吉永峯生 道源陽子 櫛崎馨 香川県 石川正興 富田佳代子 秋山武 秋山百合子 愛媛県 渡部守 大塚喜久男 三好エミ子 馬場清 伊藤梅子 長岡俊夫 久保田泰子 高知県 柳村麻耶子 山本忠 野島貞人 原一政 福岡県 萩野千代子 下釜正義 平田郁子 吉松貞子 村上清隆 秦サカエ 佐賀県 金子茂

数	都道府県	知事(揮毫)	銘石名
1	北海道	町村金五	十勝御影石
2	青森県	竹内俊吉	錦石
3	岩手県	千田正	白御影石
4	宮城県	高橋晋太郎	?
5	秋田県	小畑勇二郎	?
6	山形県	我孫子藤吉	油石
7	福島県	木村安江	黒みかげ石
8	茨城県	岩上二郎	御影石
9	栃木県	横川信六	?
10	群馬県	神田坤六	赤城小松石
11	埼玉県	栗原浩	秩父赤石
12	千葉県	友納武人	蛇紋石
13	東京都	美濃部亮吉	?
14	神奈川県	津田文吾	小松石
15	新潟県	亘四郎	糸魚川産翡翠原石
16	富山県	吉田実	油石
17	石川県	中西陽一	?
18	福井県	中川平太夫	?
19	山梨県	田辺国男	?
20	長野県	西沢権一郎	黒光真石
21	岐阜県	平野三郎	日吉影石
22	静岡県	竹山祐太郎	御影石
23	愛知県	桑原幹根	御影石
24	三重県	田中覚	紀州那智黒石
25	滋賀県	野崎欣一郎	瀬田のまぐろ石
26	京都府	蟻川虎三	鞍馬勢石
27	大阪府	佐藤義詮	能勢影石
28	兵庫県	金井元	本御影石
29	奈良県	奥田良三	?
30	和歌山県	大橋正雄	?
31	鳥取県	石破二郎	青みかげ石
32	島根県	田辺長右衛門	?
33	岡山県	加藤武徳	万成石
34	広島県	長野巖雄	御影石
35	山口県	橋本正之	黒御影石
36	徳島県	武市恭信	蛇紋治石
37	香川県	金子正則	庵島石
38	愛媛県	久松定武	大島石
39	高知県	溝淵増巳	紅石
40	福岡県	亀井光	?
41	佐賀県	池田直	唐津石
42	長崎県	久保勘一	蛇紋石
43	熊本県	寺本広作	?
44	大分県	木下郁	?
45	宮崎県	黒木博	紺碧石
46	鹿児島県	金丸三郎	?
47	沖縄県	松岡政保	トラパーテン
48	韓国	?	朝鮮万成石

「？」は記載がなく、他の資料も調べましたが見つかりませんでした。

金子庄之助 長崎県 長谷土松 山下タ  
 エ 前田フサ 板浦重雄 熊本県 石山  
 玲子 鬼海富夫 土田利子 塚野ヨシ子  
 村上佳寿子 植川二男 石山定 大分県  
 木村二三夫 宮崎県 森フサエ 鹿兒島  
 県 東キク 野平ヨネ 揚野サツエ 沖  
 縄県 宮城幸子 会友 郡義典 佐藤敬  
 義 兵頭義彦 尾上一郎 豊谷秀光 石  
 元利親 稲毛三郎 江藤圭一 山口正雄  
 堀口太平

慰霊碑建立物語

高林芳夫

「クエゼリン島慰霊碑建立のいきさつ」と題して「環礁一号」よりの再録を本誌にて掲載致しましたが、本号より「マーシャル方面遺族会」にまつわる歴史を拾って毎号発表してみたいと思います。この「マーシャル諸島、ギルバード諸島戦没者忠魂慰霊碑」の写真は本誌にて

何度も掲載されており、日本地図の形を各県の石で表現されています。この石は、都道府県産の銘石(五センチ角厚み三センチ)に知事の揮毫による県名を刻んだものです。これは制作決定と同時に始まった本部役員と各県の会員の並々ならぬご努力があつて都道府県より寄贈されたものです。銘石と揮毫者は次の表の通りです。ご寄稿は次号に送ります。

第三種郵便物認可

やすく

平成18年4月1日(12)

明治天皇御製

花

(明治二十五年)

ちはやふる 神の齋垣の花さきて  
まうづる人も おほき春かな

【四月拝殿掲示】

清く美しく育てて呉れ

海軍兵曹長 近藤 八郎 命

第六十六管備隊  
昭和十九年二月六日  
マーシャル群島  
クエゼリン島にて戦死  
長崎県出身 二十七歳

短期間の実に楽しい結婚生活であった。厚く御礼を申す。俺も此の度は生還は帰し難し。武人の妻として誇を持ち絶対に取乱してならぬ。七転八起の精神を振ひ起し、世の荒波を乗切る様。くどい事は申さぬ。幾時申してゐた言の葉を思ひ起し、老先短き両親に仕へる様。尚坊やの顔も見たいけど致方ない。清く美しく育てて呉れ。男子の場合は姓名近藤征一郎。女子の場合は姓名近藤洋子と命名して呉れ。暑さ寒さに留意され自愛專一に。

二十二日夜認ム

マスエ殿

敬具  
夫より

【四月社頭掲示】

遊就館拝観料  
変更のお知らせ

平成十八年四月一日より、遊就館の拝観料を次のように変更致しますので、お知らせ申し上げます。

- 大人 八〇〇円
- 大学生 五〇〇円
- 中・高校生 三〇〇円
- 小学生 一〇〇円
- (団体二〇名以上は二割引)

四月の宵空骨董市

今月の靖国神社宵空骨董市は、四月十六日(日)・二十一日(土)・二十三日(日)・三十日(日)の各日開催されます。

四月の献華

献華協会員による四月中の献華は次の社中の方々です。

- 麗月流 佐藤 汀恵
  - 未生流笹岡 佐藤 睦甫
  - 池坊緑葉式 篠塚 春尚
  - 都池坊 鈴木 桃舟
  - 清香古流・清香流 立原 清香
- なお、大祭期間中は各流派代表による「特別献華展」が催されます。

●靖国神社社頭に掲示(4月)された本会会員「近藤マスエさん」宛の遺言。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式挙

さる五月二十九日(月)、厚生労働省主催により、秋篠宮同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式が実施され、本会より黒川誠会長と草場寛幹事が参列致しました。今回の式典においては、政府が派遣した戦没者遺骨収集団等により、旧ソ連、インドネシア、硫黄島等において収集された氏名不詳の戦没者の御遺骨398柱が同墓苑に納骨されました。既に納骨されたものと合わせるに351、324柱となります。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑は、昭和三十四年国によって建設され、戦没者のご遺骨を埋葬してある墓苑です。

今から約六十年前の大東亜戦争では、広範な地域で苛烈な戦闘が展開されました。この戦争に際し、海外地域の戦場において、多くの方々が戦没されました。戦後、ご遺骨が日本に持ち帰られました。が、ご遺族にお渡し出来なかつたものがこの墓苑の納骨室に納めてあります。いわば「無名戦士の墓」とでもいべきものです。